

令和 5 年 8 月 3 日

守谷市議会議長 殿

委員長： 長谷川 信市 印

報告者： 山本 広行 印

総務教育常任委員会 福島県郡山市 視察・研修報告

標記の件について、次のとおり 実施 ・ 参加 したので報告します。

視察・研修日	令和 5 年 8 月 2 日 (水)	
視察・研修場所	郡山市 総合教育支援センター	
視察・研修項目	郡山市 総合教育支援センターの取組	
参加者	守谷市側	長谷川委員長、堤副委員長、高橋議長、青木、山田、山本、岩地係長
	相手側	新田所長、田中主事、吉田主事、斎藤主事、長水主査
視察・研修目的	郡山市の総合教育支援センターでの取り組みを学び、事業評価への参考とする	
視察・研修内容	郡山市 総合教育支援センターの取組について座学での研修	
視察・研修総括 (今後の取組み等)	学校管理課、学校教育推進課、郡山市教育研修センター、そして郡山市総合教育支援センターを通し、郡山市の学校教育推進構想を学び、基本方針である「誰一人取り残されない」教育の推進の基本方針を学んだ。今後の事業評価への参考としていきたい。	

視察・研修内容

福島県の中央部にある郡山市。面積（757.20 km²）、人口（約 32 万人）共に県内第 2 位の規模を誇る都市で、福島県の交通の要衝となっている。また東北のウィーン楽都郡山としても有名で、音楽関係者やミュージシャン児童生徒数も小学生 15,706 人、中学生 8,033 人、義務教育学校児童生徒数を含め、24,147 人の未来の宝がいる。

その中で今回の視察は郡山市の総合教育支援センターでの取り組みを学んだ。このセンターのみでの組織人員数は 35 人で構成されており、グランドデザインとしては、教育相談事業、適応指導事業、特別支援教育関連事業、スクールカウンセラー等配置事業、幼保小連携推進事業と 5 つに分類されている。

《目指す郡山の子ども像》との題目には、「高い志を持って自立し、他と協働して未来を拓く子ども」。また基本方針は「SDGs を郡山の子どもたちから 『誰一人取り残されない』 教育の推進 ～多様性と調和を目指して～」に則り、施策を立てている。

また総合教育支援センターのビルの隣地にはニコニコこども館が立地し、その一角にはふれあい学級があり、規模・スペース共に非常に充実しており、この 2 つの建物の存在感が、郡山市の教育支援を見守っているのだと実感した。

守谷市とは、市の面積、予算、児童生徒数が数倍から数十倍違うため、同様の手段を講じることは難しいが、今回の視察研修で得たことを、事業評価だけに捉われず、拾い視野で参考とし、活かしていきたい。